

山行報告書

日時	2016年 2月6日(土)・7日(日)	天候	6日晴れのち雪・7日雪のち晴れ
山名	県連登山学校 中級コース 第十回講習 野田ヶ山		
CL	木下講師	参加者	高田 (1)名
(コース)	<p>5日22:30古賀SA=6日未明蒜山SA着仮眠</p> <p>6日大山寺発・・・スキー場横断・・・川床・・・大休峠小屋・・・15:10テント設営、竪穴式雪洞構築(泊)</p> <p>7日7:00大休峠小屋・・・滑落停止訓練・・・川床・・・スキー場横断・・・大山寺=SAで食事・ミー</p>		
(コメント)	<p>今回は一晩に約30cm降雪があり、本格的なラッセル、冬山でのテント設営、雪洞構築、滑落停止訓練など実践講習が受けられ大変実のあるものでした。また厳しい気象条件の中 協力して困難を乗り越えることで講師団・受講生間でもより一層強固な結びつきが出来たと思います。以下講習の内容です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダブルラッセル・・・先頭の2名はザックを置いて全力で前進する。早目に先頭を交代する。 脇によけ後続をやり過ごし、ザックを取りに行き最後尾に戻る。一連の作業を全員の目が届く範囲で行う。 ・積雪が多い時の斜面の登り方・・・ピッケルで頭上の雪を落とす。ひざを雪面に押し付けて固め足場を作る。そこに足を乗せて前進する。 ・テントでの宿泊準備・・・テント場の整地、テント設営(自在はテント側)、トイレ設営、飲料水用の雪の確保、ピッケル・アイゼンは全員分をまとめる。ショベルはテント入口付近。 ・テントでの生活・・・雪は可能な限り落として入る。室内に入った雪は外に捨てる。靴はビニール袋に入れる。湯を沸かす時、気温が低い時はガスポンペを手袋をした手で覆って温めたり、ポンペを湯につけると火力が上がる。ポンペの燃焼時間を把握しておく。 ・雪洞構築・・・今回は1.8Mほどの深さの穴を掘って、穴の中心に木を立て屋根をブルーシートで覆い、ブルーシートの周りは雪ブロックを載せるといった形状のものを作りました。 <p>受講生6名が雪洞内に泊まりました。夜間、降雪が多く屋根が潰れました。事前に目が覚め冷静に判断して小屋に避難して無事でしたが、皆 そのまま熟睡をしていたことを考えると恐ろしいです。また念のため無線機を持っていたのですが電源を切っており講師陣と連絡が出来なかったため講師が小屋に確認に来て状況を把握することになり大変心配を掛けました。(小屋を使用した時の掃除を怠らないことも大切)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雪崩対策・・・事前に雪崩発生のある箇所を確認し地図に書き込む。パーティーで雪崩の危険箇所が予想出来る人の中から担当を決めておき、危険箇所では合図をする。ザックのベルトは緩める。 ・雪庇があるところや片方が切り立った斜面で滑落の恐れがあるようなところを通過するときは事前にパーティーで声掛けをする。 ・滑落停止訓練・・・繰り返し訓練して体が反応するよう身に付ける。 		
費用概算	(交通費・食費・ガス・マイクロバスレンタル費用/人) 8,500円		

(2015.04.09改訂)